

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	健康増進課	
施策	4	健康づくり・医療の充実	評価 責任者	工藤 弘幸	内線 6220
小施策	4-1	健康の保持増進	評価 シート 作成者	小田島 晃子	内線 6220

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生活習慣を起因とする高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が年々増加しており、市民自らが生活習慣を改善して発病を予防する「一次予防」と、健康診査・がん検診など、受診により病気の早期発見・早期治療を進める「二次予防」に重点をおいた取組が必要である。	心身ともに健康を保持し、生涯を健やかに暮らすことができるように、生活習慣病の早期発見と予防のための各種検診のほか、健康教育や訪問指導などの地域に密着した活動を推進して、市民が主体的に健康管理や健康増進に取り組める環境づくりを進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	・健康を保つ活動が行われている ・病気になるようにする ・受診できる

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
指標① 健康教育参加者数	人	→	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病に関する内容では、定員以上の申し込みのあった教室があった。 食生活改善推進員協議会の活動については、関係機関とコラボを図り、集客に効果を上げることができた。 (クリーンセンター)平成29年度の施設利用者数は各種イベントや広報活動により、前年度に引続き26万人を超えた。このことから、市民の健康増進に大きく寄与したといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の周知にメディアを活用し、参加者数・教室の目的等に集客に効果を上げている。 経済企画課と協働し、健康づくり教室の参加者に対し「MORIO-Jカード」にポイントを付与する検証を実施した結果、健康ポイントへの関心が高いことがわかった。 (クリーンセンター)指定管理者が、長年の運営管理の経験をもとに様々な創意工夫をこらし、利用者に対するきめ細やかなサービスや各種のイベント・教室を実施していること。 	<ul style="list-style-type: none"> 29年度の参加者数7,810人と28年度の8,444人に比べ減少している。 健康教育の参加者は、64歳以下は1,966人と全体の35.2%であり、65歳以上が6割を占めている。(28年度 35.2%, 27年度 39.0%) 有職者も参加可能な教室を複数回で企画したが、定員に満たないコースもあった。 教室や会場により、申込みバラツキがある。 (クリーンセンター)供用開始から16年が経過し、修繕を必要とする設備・機器が増えているが、十分な対応ができない。
当初値 (H25) 7,996	H31目標値 8,800	H36目標値 8,800			
※ 盛岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の改定に合わせて平成30年度に目標値を変更している					
指標② がん検診受診率	%	↗	<ul style="list-style-type: none"> 胃がん個別検診については、28年度に比較し531人増加し、受診率は15.8%と前年度より若干上回った。(胃がんエックス線と内視鏡検診の選択導入により、胃がんの受診者数は増加した) 	<ul style="list-style-type: none"> 胃がん検診については、選択性を導入したことにより、個々に合わせた健診受診のメリットが理解されたことによると思われる。 成人健診受診については、公共施設、大学などへのポスター掲示の依頼等、公用車にPRステッカー貼付し保健活動を行うなど周知方法の工夫を行ったことに併せ、がん患者について、テレビ等で取り上げられ、早期発見の意識が高まり受診につながったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 胃がん検診全体の受診者数が若干増加したものの、全体の受診者数は横ばいの状況が続いている。 健康に無関心な若年層などへ検診の必要性などの啓発の機会がなく、周知が難しい。 検診別では、子宮頸がん検診の受診者数の減少については、医師確保の問題で検診を見送った医療機関があった。 玉山地域については、個別検診と集団検診が選択可能であるが、子宮頸がん検診や乳がん検診についての受診者数について集団検診が減少し個別検診が増加している。個別検診については、若年層が利用する傾向があり、身近に受診可能な集団についても地域の健康相談等にてPRがより必要である。
当初値 (H25) 22.1	H31目標値 40.0	H36目標値 40.0			

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ★ インセンティブの提供により、健康教室への参加促進や健康づくりに取り組むきっかけ、意識啓発につなげていく。 ★ 対象教室(7教室)の参加者に「MORIO-Jカード」のポイントを付与する。 ★ 引き続き保健推進員、食生活改善推進員等の関係団体等に働きかけ、身近なところから声掛け等健康づくりへのきっかけをつくる。 ★ 勤労の若年者にも参加しやすいよう教室の内容や時間、形態を検討し参加しやすいよう工夫した教室にする。 ☆1 兼務である課の健康教室においてポイント事業の実施を検討する。 ★ (クリーンセンター)予防保全を含めた計画的な修繕の必要性、重要性の理解を得て予算を確保する。
<ul style="list-style-type: none"> ★ 胃集団検診では、受診者の利便性を考慮し、休日(日曜日)の検診日を増やすなどし、胃がん検診全体の受診者の拡大を図る。 ★ 子宮頸がん検診の若年者への受診者勧奨のため、大学に働きかけることや「二十歳のつどい」の参加者に検診の必要性等のチラシを配布する。 ★ 健康フェスタなどのイベントを活用し、検診の必要性、受診の方法など、具体的な方法を周知し受診率の向上を図る。 ★ 保健推進員等の健康づくりサポーターへの検診についての大切さを学んでもらうとともに検診への呼びかけに積極的に働きかける。 ★ 健康に無関心な若年層に向け、広報の特集号や社保から国保に切り替わった方に検診の受け方等のチラシを配布する。 ★ (玉山地域)働き盛りの年代に検診の重要性を伝え、受診行動に結びつくように、学校保健の行事を通じて健康教育に保健師が出向き、検診や健康管理の大切さを伝える。